

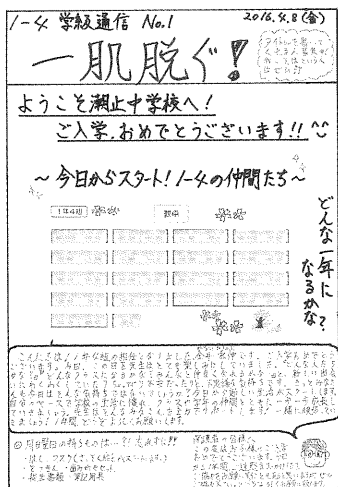
架け橋

～担任・生徒・保護者をつなぐ学級通信～

八潮市立潮止中学校 金井宏伸

日刊学級通信「一肌脱ぐ！」のスタート

今年度で採用3年目。そんな私が昨年の初担任から行っている実践があります。それは、日刊で発行している学級通信です。「担任をもった際は絶対にやりたい！」そう思って始めた日刊学級通信。何故なら、学生時代から日刊学級通信の良さを学んでいる、どうしても自分自身でも発行したいという強い思いがあったからです。



右図は昨年の入学式に発行した学級通信です。私の日刊学級通信の記念すべき第一号です。タイトルは「一肌脱ぐ！」にしました。こんなタイトルの学級通信なんて他にはないのではないのでしょうか（笑）辞典を引いてみると、「その人の為に、本気に

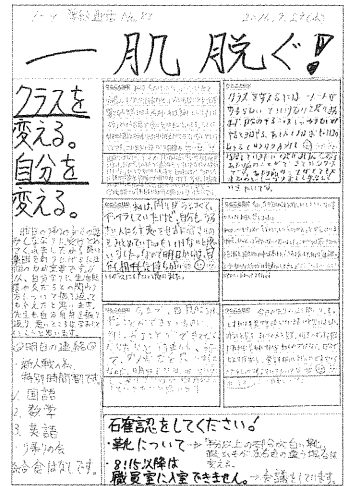
なつて助成する」という意味でした。一年間、クラスの一人ひとりが友だちの為に考え、行動できるようになつてほしい。さらに、自分自身の為に本気になつて努力をし、一回りも二回りも成長できるようになつてほしい…。そんな思いを込めてこのタイトルとし、日刊学級通信をスタートさせました。

学級の「今」を伝える

昨年は日刊学級通信「一肌脱ぐ！」を192号まで発行しました。宿泊学習、感染性胃腸炎でダウンした日を除き、行事や出張の日も毎日だし続けました。手書きで発行していることもあり、日刊での発行は大変な部分も多くあります。しかし、日刊学級通信は、私が学級経営を行うにあつて、さらには学級の様子を家庭に伝えたり、子どもたちの成長を認め・褒めたりするためには必要不可欠な取組となっています。私が今現在も日刊で発行し続けている学級通信の実践について、またそのねらいをいくつか紹介します。

架け橋① 担任の指導観を保護者に示していく

学級では日々様々なことが巻き起こりま



意識していることは決して担任の思いや考えを押しつけないこと。あくまで提示をするのみで、子どもたちで考え、問題解決させる。



学級の問題について子どもたちが考えたことを載せる。級友の考えを子ども同士で共有させるとともに、家庭にも子どもたちの変容が伝わる。

す。それは勿論、良いことばかりではありません。時には良くないことだって起こります。その都度、学級で子どもたちに担任としての思いや考えを伝えます。これを学級のみでの指導で終えるのではなく、学級通信にも掲載することで、家庭の保護者の方々にも担任の指導観や子どもたちの変化が伝わるように心がけています。たとえ、何か学級で問題が生じて、その問題に対して学級全体で考え、個人がより良い学級にするために思考していく過程を保護者に発信していくことで、どのように子どもたちの考えが変容していったのかがわかるように意識をしています。

架け橋② 日々の学級での出来事、子どもたちの様子を伝える

子どもたちは一日の半分以上の時間を学校で過ごします。中学生ともなると、「今日学校でこんなことがあったんだよー!」と家庭で話す子どもは少ないと思います。今日学校でどんなことがあったのか、友だちとは上手く関わっていているだろうか、保護者の方々が気になるのは当然のことであると思います。そこで、日々の学級での子どもたちの様子や活動、クラスでの出来事もドンドン掲載しています。「これって学級通信に載せるようなこと?」と周囲

の職員が思わず言ってしまうような一面でも載せ、保護者の方々に子どもたちの学校での様子が少しでも見えるようにしています。

今回、この実践の執筆の依頼を受け、初めて保護者の方々と生徒たちにアンケートをお願いしました。急なお願いにも関わらず、保護者の方々には多くの感想をいただきました。その中には、「クラスの雰囲気や生徒たちの行動、先生が感じていることが良くわかる。」「毎日教室を覗いている気分になれる。」「思春期の子どもは面倒くさがって何もはなしてくれないところだが、この学級通信が会話のきっかけになっていた。」「といった声を多くいただきました。本当に嬉しい限りです。

架け橋③ 子どもたちを認めあげ。そして褒めてあげる

誰だつて自分のことを認められたり、褒められたりしたらうれしいものですよね。それは大人も子どもも同じだと私は思います。日頃のさりげない声掛けは勿論、学級通信でも集団としても個人としても頑張りが成長をどんどん載せてあげます。個人であれば氏名を載せて認め、褒めてあげます。ねらいは、集団としての意識の向上や、生

徒一人ひとりの自己肯定感の向上を図ることです。

手書きの日刊学級通信は大変！
だけど…

「一日の学級の様子がとても良くわかり、感謝しています。また、学級通信を見ながら家族全員で毎日の団樂の会話の一つにさせて頂いています。」日刊での発行は大変

1-4 学級通信 No.113 2016.11.5(水)

一肌脱ぐ！

学校公開日です！

昨日の学級会から…

働く大人の学級会

明日の課題
①委員会
②委員会
③PTA行事 金庫札読み

1-4 学級通信 No.73 2016.7.6(水)

一肌脱ぐ！

まずは歌詞を完璧に！

徳島のバラード

昨日の学級会から…

明日の課題
①委員会
②委員会
③PTA行事 金庫札読み

1-4 学級通信 No.130 2016.12.2(金)

一肌脱ぐ！

サッとおどってくれる行動力と思いやり、感謝です。

今日の朝のできごと

明日の課題
①委員会
②委員会
③PTA行事 金庫札読み

整理整頓

1-4 学級通信 No.66 2016.7.13(水)

一肌脱ぐ！

放課後教室点検の結果、学年でトップでした。

あと4日！

大丈夫…！

明日の課題
①委員会
②委員会
③PTA行事 金庫札読み

だと思いますが、これからも学校の様子など色々伝えてください。「手作り感があっていいと思います。(愛情も感じます) 今までの学級通信はパソコンで作られたものが多かったので、金井先生になってから、手書きで驚きました。」などなど、今年もありがたいことに保護者の方々に嬉しい言葉をたくさんいただきました。日刊学級通信、大変か大変ではないかと言われたら…大変な時もあります。(笑) でも今は日刊

での発行が当たり前なので、苦ではないです。半ば趣味かもしれませぬ。

これは、私の勝手な考えですが、日頃の学級指導や学級の様子を伝え、決して学校生活をブラックボックスにするのではなく、常にオープンで、学級のリアルな出来事を伝えていくことが、保護者の方々への「信頼」に繋がるのではないかと考えています。担任がどんな人間なのか、どういう指導を行っているのが生徒たちの口から保護者の方々に伝わるというだけでなく、担任自身から情報を発信し、「私はこんなタイプです。」ということを知ること、理解をしてもらおう。さらにどんなに些細なことであっても家庭に連絡をし、連携を図っていく。そうした積み重ねがとても大切なのではないかと思っています。

毎日学級通信を発行するということは、特に空き時間がない日などは大変です。出張などの日は、前日の夜に書き上げておくこともありました。しかし、日刊学級通信というのは大変な分、得るものや学ぶものもたくさんあります。中には学級通信に残すことで、その内容が後々問題につながるから余計なことは書くなとか、そんな時間があるのなら他の仕事に力を入れるという方もいると思います。考え方は人それぞれであると思います。しかし、私にとって日刊学級通信というのは担任・生徒・保護者

をつなぐ大事な「架け橋」であると考えています。昨年は192号まで学級通信を発行し、今その一日一日を振り返ると、それをひしひしと感じます。学校として、地域や家庭と連携した取組もとても大切であると思います。ですが、それ以上にこうした小さなところから大きな「信頼」を築いていくということが、もつと大切であり、大事にしていかなければならないと強く思います。

進化し続ける!?「一肌脱ぐ!」

今年度は、持ちあがり度で二年生の担当となりました。昨年度の実践をもとに、今年度も日刊学級通信を発行しています。昨年度の反省点を今年度は改善し、より子どもたちの様子や学級の様子等がストレートに伝わるような学級通信を生徒や保護者の方々に巻き込んで創っていきたいと思っています。

今年の8月には、岡山県で行われた、「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい—教育研究全国集会2017—」において、この学級通信の実践についてのレポートを発表させていただきました。そこでは、全国の先生方から学級通信を発行する上で意識していることや、アドバイスをたくさんいただくことができました。自分には思い

もつかなかった工夫や、中には生徒や保護者の方々と書き上げている先生もいらっしゃる、学びになる良い機会でした。

今回、生徒たちの中でもアンケートに答えてくれた子たちが何人もいました。「一人一言コーナーがあると面白そう。」「学期末に持っているだけの「一肌脱ぐ!」をもつてきて一冊にまとめる。先生からの一言や友だち同士のメッセージを書いたら良さそう。」「行事が近づいたときに、カウンタダウンなどをみんなに書いてもらってコメントを入れてもらったら頑張れそう。」「表紙を誰かが書く。」などなど。「ああ、子ども発想ってすごいなあ。」と思いました。これから発行する学級通信に、できることから取り入れて、より良い学級通信にしていきたいと思っています。

最後に

学級通信を発行している先生が最近減ってきたように感じます。学期の始めや終わりに発行する先生が若干名いらっしやる程度ではないでしょうか。長時間過密労働、そして終わりが見えない仕事量……。そのような現在の教育現場の中ではなかなか教員が個々の個性を発揮し、自由な教育実践を行っていくことは中々難しいことだと思います。ですが、この文章を今読んでいる先生

方(特に私のような経験年数の少ない先生方)には、ぜひ学級通信を発行していただきたいと思っています。何も日刊である必要はないとおもいます。週刊でも月刊でも良いのです。大切なのは「不定期な発行にならないこと」であると思います。無理のない範囲で始めてみてください。学級通信の良さは、学級通信を書き続けている人にかわりません。大変でも実践していくうちに、それが日課となります。そして、学びや様々なつながりを学級通信から得ることができるはずですよ。これを機に「学級通信、発行してみようかな。」と頑張ってくださった先生が一人でもいらっしやったら幸いです

